

平成30年 結核登録者情報調査年報集計結果について

当該年報は、平成30年1月1日から同年12月31日の間に、新たに登録された結核患者及び潜在性結核感染症(LTBI)の者と、平成30年12月31日現在に登録されているすべての登録者に関する状況について、感染症サーベイランスシステム(NESID)上の結核登録者情報システムに全国の保健所から入力されたものを、「結核登録者情報調査年報」として取りまとめたものである。

～表ごとの解説～

【表1 諸外国と日本の結核罹患率について】

平成30年の結核罹患率(人口10万対)は12.3であり、前年と比べ1.0ポイント減少している。

日本の結核罹患率は近隣アジア諸国に比べ低い水準にあり、米国等の先進国の水準に年々近づいている。

【表2 結核罹患率の都道府県別おもな順位について】

都道府県別の結核罹患率(人口10万対)は、大阪府、長崎県、兵庫県、愛知県、大分県の順に高く、山形県、宮城県、秋田県、新潟県、岩手県の順に低くなっている。大阪府の結核罹患率は20.5であり、同府の中でも大阪市の罹患率が最も高く、29.3となっている。(表2、表7-2)

【表3 結核の死亡数及び死亡率の年次推移について】

平成30年の結核による死亡数は2,204人(概数)で、前年の2,306人に比べ102人減少している。死因順位は30位で前年と同順位だが、死亡率(人口10万対)は1.9から1.8に減少している。

【表4 新登録結核患者数及び罹患率の年次推移について】

(1) 平成30年に、新たに結核患者として登録された者の数(新登録結核患者数)は15,590人で、前年より1,199人(7.1%)減少している。減少率を見ると、平成28年から平成29年にかけての減少率は4.7%(17,625人 16,789人)であることから、減少幅は2.4ポイント大きくなっている。(表4-1)

(2) 平成30年の罹患率(人口10万対)は12.3であり、前年の13.3より1.0(7.5%)減少している。減少率を見ると、平成28年から平成

29年にかけての減少率は4.3%であることから、減少幅は3.2ポイント大きくなっている。(表4 - 1、図1)

- (3) 喀痰塗抹陽性肺結核の患者数は5,781人で、前年より578人(9.1%)減少している。(表4 - 2)
- (4) 喀痰塗抹陽性肺結核の罹患率(人口10万対)は4.6であり、前年の5.0より0.4減少している。喀痰塗抹陽性肺結核の患者が全体に占める割合は37.1%で、前年と比べて0.8ポイント減少している。(表4 - 2)

【表5 年次別・年齢階級別 新登録結核患者数および潜在性結核感染症新登録者数について】

- (1) 年齢階級別の新登録結核患者数では、0～14歳の小児結核は51人で前年から8人の減少となっている。10～14歳、15～19歳、20歳～29歳の若年層では患者数が増加しており、20～29歳では、前年から42人の増加となっている。その他の年齢階級では前年から患者数は減少している。減少は60～69歳で最も大きく320人の減少、次いで80～89歳で288人の減少となっている。増加傾向が続いていた90歳以上でも98人の減少となっている。各年齢階級別で全体に占める割合は、80～89歳が29.1%と最も多くなっている。90歳以上でも割合は11.6%となっており増加傾向は続いている。(表5 - 1)
- (2) 年齢階級別の喀痰塗抹陽性肺結核新登録患者数は、0～14歳の小児結核は4人で前年と同数である。15歳以上の年齢層では、20～29歳では7人の増加となったが、30歳以上の各年齢階級では減少となっている。減少幅は80～89歳が138人の減少、70歳～79歳が137人の減少と高齢層での減少が大きくなっている。各年齢階級別で全体に占める割合は、80～89歳が32.1%と最も大きくなっている。(表5 - 2)
- (3) 平成30年に登録された小児結核患者(15歳未満)のうち、重症結核例である粟粒結核及び結核性髄膜炎患者数は各1人ずつの2人となっている。どちらの患者も0歳であった。(表5 - 3)
- (4) 平成30年に新たに登録された潜在性結核感染症の者の数は7,414人で、前年より159人の増加となっている。年齢階級別では、14歳以下の小児の各年齢階級と30歳以上69歳以下の各年齢階級で減少となっているが、15～19歳、20～29歳の若年層と70歳以上の

高齢層では増加となっている。特に増加が大きかった年齢階級である20～29歳では159人、70～79歳では137人の増加となっている。（表5 - 4）

- (5) 新登録結核患者数に対する潜在性結核感染症新登録者数の比は、14歳以下の各年齢階級では3以上となっており、潜在性結核感染症新登録患者数の方が多くなっている。特に0～4歳、5～9歳では17以上となっている。15～19歳では比は1.0、20歳以上の各年齢階級では、いずれも1未満となっており、新登録結核患者数の方が多くなっている。（表5 - 5）
- (6) 職業別では、全体の潜在性結核感染症新登録者数に占める医療職の割合が、前年の24.6%から21.9%に減少している。一方、無職・その他が全体に占める割合が、前年の29.5%から30.6%に増加しており、平成26年の20.9%から1.5倍の増加となっている。（表5 - 6）
- (7) 外国生まれ新登録結核患者数は、前年から137人増加して1,667人となり、新登録結核患者に占める割合は10.7%となっている。新登録患者数が最も増加したのは20～29歳であり、前年から122人増加し、896人となっている。また、20～29歳の新登録結核患者における外国生まれの者の割合も前年から7.5ポイント増加し、70.4%となっている。30～39歳の外国生まれ新登録結核患者数は前年に比べて5人の減少で344人となっているが、30～39歳の新登録結核患者における外国生まれの者の割合は38.9%と前年から3.5ポイントの増加となっている。（表5 - 7）
- (8) 外国生まれ新登録結核患者のうち、入国5年以内の者は、前年の738人から144人増加し882人となっている。特に20～29歳では、前年から126人増加し、617人となっている。（表5 - 8）
- (9) 日本生まれ新登録結核患者数は、前年の14,533人から963人減少して13,570人となっている。年齢階級別では80～89歳の患者数が最も多く日本生まれ新登録結核患者の32.4%となっている。また、10～19歳の各年齢階級では、新登録結核患者数はわずかではあるが増加となっている。その他の年齢階級では前年からは減少となっており、60～69歳で減少が最も大きく前年から251人減少の1,629人となっている。（表5 - 9）

【表6 年次別・年齢階級別 結核罹患率について】

- (1) 年齢階級別の結核罹患率は、70歳以上の高齢層で高くなっている。60～69歳の罹患率は10.0で全体の罹患率より低い。70～79歳で19.7、80～89歳で51.2、90歳以上では82.8となっている。ただし、30歳以上の各年齢階級では年次推移は減少傾向にある。一方、20～29歳の罹患率は10.1と前年から0.3の増加となっている。(表6-1)
- (2) 喀痰塗抹陽性肺結核の罹患率も、同様に、高齢層ほど高くなっている。69歳以下の各年齢階級では10未満だが、80～89歳で21.0、90歳以上では36.3となっている。(表6-2)
- (3) 新登録結核患者のうち、日本生まれの結核罹患率は、前年から0.8ポイント減少の10.9となっている。外国生まれ結核患者の影響が除かれた20～29歳の罹患率は3.1と前年から0.5の減少となっている。(表6-3)

【表7 新登録結核患者数及び結核罹患率 都道府県別・年次推移について】

- (1) 都道府県別の新登録結核患者数は、47都道府県のうち7の県で増加している。新登録結核患者数が最も多いのは東京都の1,970人で、次いで大阪府の1,805人となっている。(表7-1)
- (2) 都道府県別の結核罹患率は、47都道府県のうち7の県で前年から増加している。一方、結核低まん延の水準である罹患率が10を下回った都道府県数は、前年の10から大きく増加して17となっている。最も低い山形県の結核罹患率は6.0となっている。(表7-2)

【表8 年末時結核登録者数及び有病率の年次推移について】

平成30年末現在の結核登録者数は37,134人と、前年の39,670人より2,536人減少している。そのうち、活動性全結核の患者数は10,448人と、前年より649人減少している。また、平成30年末の結核有病率は、前年から0.5減少し、8.3となっている。

【表9～表15 新登録結核患者の疫学的特徴について】

< 再治療者 >

平成30年新登録結核患者のうちの再治療者は、前年の839人から107人減少して732人となっている。このうち、前回治療年が2000年以降の者は495人で、さらに2010年以降の者が406人と再治療者のうち55.5%となっている。(表9)

< 発見の遅れ >

(ア) 平成30年の新登録肺結核患者のうち有症状の者の中で、受診が遅れた(症状発現から受診までの期間が2か月以上)患者の割合は、20.6%となり、前年から0.2ポイントの減少となったが、平成14年以降では依然として高い割合となっている。このうち30～59歳の有症状喀痰塗抹陽性肺結核患者に限定すると、受診が遅れた患者の割合は34.5%となっている。(表10-1)

(イ) 診断が遅れた(受診から結核の診断までの期間が1か月以上)患者の割合は、22.0%となっている。(表10-2)

(ウ) 発見が遅れた(症状発現から結核の診断までの期間が3か月以上)患者の割合は、20.7%となっている。(表10-3)

< 薬剤耐性 >

平成30年の新登録肺結核培養陽性結核患者9,016人のうち、薬剤感受性検査結果が判明した者(INH、RFP両剤感受性検査結果判明者)は7,570人で、割合は84.0%となり、前年の82.4%から1.6ポイント増加となっている。このうち、多剤耐性肺結核患者数(INH、RFP両剤耐性の者)は55人で、前年より3人増加となっている。新登録肺結核培養陽性結核患者の多剤耐性結核割合は0.6%で前年の0.5%から0.1ポイント増加となっている。また、薬剤感受性検査結果が判明した者のうち、主要4剤(HRSE)全ての薬剤に対し感受性のある患者の割合は89.0%となっている。(表11)

< 糖尿病、HIV合併 >

平成30年の新登録結核患者のうち、糖尿病合併患者は2,210人で、新登録結核患者の14.2%となっている。また、HIV検査を実施した患者は1,295人で、新登録結核患者の8.3%にあたり、このうちHIV陽性は44人で、新登録結核患者の0.3%となっている。(表12)

< 医療従事者 >

- (ア) 平成30年の新登録結核患者のうち、看護師・保健師からの登録患者は168人で、昨年の216人から48人の減少となっている。新登録結核患者のうちの割合は1.1%と前年の1.3%から0.2ポイントの減少となっている。年齢階級別では、40～49歳の層が最も多く、前年の54人から4人増加して58人、同年齢階級新登録結核患者の5.6%となっている。(表13 - 1)
- (イ) 平成30年の新登録結核患者のうち、医師の登録患者は34人で、新登録結核患者の0.2%となっている。年齢階級別の割合では、30～59歳で、同年齢階級新登録結核患者の0.3～0.9%となっている。(表13 - 2)
- (ウ) 平成30年の新登録結核患者のうち、理学療法士、作業療法士、検査技師、放射線技師など、看護師・保健師・医師以外の者で医療機関に勤務する者の登録患者数は225人で昨年の280人から55人の減少となり、新登録結核患者のうちの割合は1.4%となっている。年齢階級別では、30～39歳における割合が最も大きく、同年齢階級新登録結核患者の6.4%となっている。(表13 - 3)

< 無職臨時日雇など >

平成30年の新登録結核患者のうち、登録時の年齢が20～59歳であり、登録時の職業が無職臨時日雇等であった者は869人で、昨年の878人から9人減少している。新登録結核患者のうちの割合は20.0%で前年の18.9%から1.1ポイントの増加となっている。年齢階級別での患者数は、高齢層ほど多くなっており、55～59歳では、同年齢階級の33.9%と3人に1人となっている。

また、男性の患者に占める無職臨時日雇等の者の割合は55～59歳が最も割合が大きく34.1%となっており、前年から8.2ポイント増加している。(表14 - 1、14 - 2)

< 治療成績 >

- (ア) 平成29年の新登録結核患者の平成30年末での治療成績は、治療成功が68.2%、死亡22.5%、失敗0.1%、脱落・中断1.6%、転出3.3%、治療中4.0%、不明0.3%となっている。60歳以上から年齢階級の上昇にともなって死亡割合が増加し、60～69歳で12.0%、70～79歳で19.6%、80～89歳で36.8%、90歳以上で54.2%となっている。死亡の影響が少ない59歳以下の年齢階級の治療成功割合は78.4%～90.0%となっている。脱落・中断は50～59歳で最も高く2.3%となっている。(表15 - 1)

- (イ) 平成29年の新登録再治療結核患者の平成30年末での治療成績は、治療成功が68.7%、死亡17.7%、失敗0.1%、脱落・中断3.8%、転出2.3%、治療中7.1%、不明0.4%となっており、死亡の割合は全体よりも低くなっているものの脱落・中断が多くなっている。(表15 - 2)
- (ウ) 平成29年の潜在性結核感染症新登録者のうち治療を開始した者の平成30年末での治療完了率は85.5%となっている。脱落・中断は7.9%となっているが、中高年齢層では高く50～59歳では11.6%、60～69歳で9.6%となっている。(表15 - 3)
- (エ) 平成28年の新登録結核患者で多剤耐性結核患者の平成30年末での治療成績は、対象56人のうち治療成功51.8%、死亡19.6%、失敗0.0%、脱落・中断12.5%、転出8.9%、治療中3.6%、不明3.6%となっている。(表15 - 4)

表1. 諸外国と日本の結核罹患率

国名	罹患率	年次
米国	2.7	2017
デンマーク	4.4	2017
オランダ	4.6	2017
カナダ	4.9	2017
スウェーデン	4.9	2017
オーストラリア	5.9	2017
イタリア	6.4	2017
ドイツ	6.5	2017
フランス	7.4	2017
英国	7.9	2017
日本	12.3	2018
シンガポール	41	2017
中国	55	2017
韓国	66	2017
ベトナム	108	2017
タイ	116	2017
インドネシア	167	2017
フィリピン	302	2017

諸外国のデータは、下記より転記

“WHO TB burden estimates”

Downloaded WHO TB burden estimates [775kb]. Accessed 2019 July 24

<https://extranet.who.int/tme/generateCSV.asp?ds=estimates>

平成30年の結核罹患率（人口10万対）は12.3であり、前年と比べ1.0ポイント減少している。日本の結核罹患率は近隣アジア諸国に比べ低い水準にあり、米国等の先進国の水準に年々近づいている。

表 2 . 結核罹患率の都道府県別おもな順位

	都道府県名	罹患率
罹患率の低い5 都道府県	山 形	6.0
	宮 城	7.2
	秋 田	7.5
	新 潟	7.9
	岩 手	8.5
罹患率の高い5 都道府県	大 阪	20.5
	長 崎	16.6
	兵 庫	15.1
	愛 知	14.9
	大 分	14.8

同率の場合は小数点2位以下で順位を決定

都道府県別の結核罹患率（人口10万対）は、大阪府、長崎県、兵庫県、愛知県、大分県の順に高く、山形県、宮城県、秋田県、新潟県、岩手県の順に低くなっている。大阪府の結核罹患率は20.5であり、同府の中でも大阪市の罹患率が最も高く、29.3となっている。

表3. 結核の死亡数及び死亡率の年次推移

年次	死亡順位	死亡数	死亡率
昭和25年	1位	121,769	146.4
" 30年	5位	46,735	52.3
" 35年	7位	31,959	34.2
" 40年	7位	22,366	22.8
" 45年	8位	15,899	15.4
" 50年	10位	10,567	9.5
" 55年	13位	6,439	5.5
" 60年	16位	4,692	3.9
平成元年	18位	3,527	2.9
" 2年	17位	3,664	3.0
" 3年	20位	3,325	2.7
" 4年	21位	3,347	2.7
" 5年	21位	3,249	2.6
" 6年	23位	3,094	2.5
" 7年	23位	3,178	2.6
" 8年	22位	2,858	2.3
" 9年	22位	2,742	2.2
" 10年	22位	2,795	2.2
" 11年	21位	2,935	2.3
" 12年	24位	2,656	2.1
" 13年	25位	2,491	2.0
" 14年	25位	2,317	1.8
" 15年	25位	2,337	1.9
" 16年	25位	2,330	1.8
" 17年	25位	2,296	1.8
" 18年	26位	2,269	1.8
" 19年	27位	2,194	1.7
" 20年	25位	2,220	1.8
" 21年	24位	2,159	1.7
" 22年	26位	2,129	1.7
" 23年	25位	2,166	1.7
" 24年	26位	2,110	1.7
" 25年	26位	2,087	1.7
" 26年	26位	2,100	1.7
" 27年	29位	1,956	1.6
" 28年	28位	1,892	1.5
" 29年	30位	2,306	1.9
" 30年	30位	2,204	1.8

(注) 死亡率は人口10万対
 人口動態統計より。平成30年は概数。
 平成29年より死因統計に使用する分類を変更したことに伴い、
 死因を選択する統計上のルールも変更された。死因別死亡数の
 一部にみられる数値の大幅な変化には、これらの影響による変
 動が含まれている(人口動態統計月報年計(概数)の概況より)。

平成30年の結核による死亡数は2,204人(概数)で、前年の2,306人に比べ102人減少している。死因順位は30位で前年と同順位だが、死亡率(人口10万対)は1.9から1.8に減少している。

表4 - 1 . 新登録結核患者数及び罹患率の年次推移

区 分	全結核（新分類）				全結核（旧分類）			
	実数 / 前年比		罹患率(人口10万対) / 前年比		実数 / 前年比		罹患率(人口10万対) / 前年比	
平成4年					48,956		39.3	
平成5年					47,437	1,519	38.0	1.3
平成6年					44,590	2,847	35.7	2.3
平成7年					43,078	1,512	34.3	1.4
平成8年					42,472	606	33.7	0.6
平成9年					42,715	243	33.9	0.2
平成10年	41,033		32.4		44,016	1,301	34.8	0.9
平成11年	43,818	2,785	34.6	2.2				
平成12年	39,384	4,434	31.0	3.6				
平成13年	35,489	3,895	27.9	3.1				
平成14年	32,828	2,661	25.8	2.1				
平成15年	31,638	1,190	24.8	1.0				
平成16年	29,736	1,902	23.3	1.5				
平成17年	28,319	1,417	22.2	1.1				
平成18年	26,384	1,935	20.6	1.6				
平成19年	25,311	1,073	19.8	0.8				
平成20年	24,760	551	19.4	0.4				
平成21年	24,170	590	19.0	0.4				
平成22年	23,261	909	18.2	0.8				
平成23年	22,681	580	17.7	0.5				
平成24年	21,283	1,398	16.7	1.0				
平成25年	20,495	788	16.1	0.6				
平成26年	19,615	880	15.4	0.7				
平成27年	18,280	1,335	14.4	1.0				
平成28年	17,625	655	13.9	0.5				
平成29年	16,789	836	13.3	0.6				
平成30年	15,590	1,199	12.3	1.0				

平成30年に、新たに結核患者として登録された者の数（新登録結核患者数）は15,590人で、前年より1,199人(7.1%)減少している。減少率を見ると、平成28年から平成29年にかけての減少率は4.7%（17,625人 16,789人）であることから、減少幅は2.4ポイント大きくなっている。

平成30年の罹患率（人口10万対）は12.3であり、前年の13.3より1.0(7.5%)減少している。減少率を見ると、平成28年から平成29年にかけての減少率は4.3%であることから、減少幅は3.2ポイント大きくなっている。

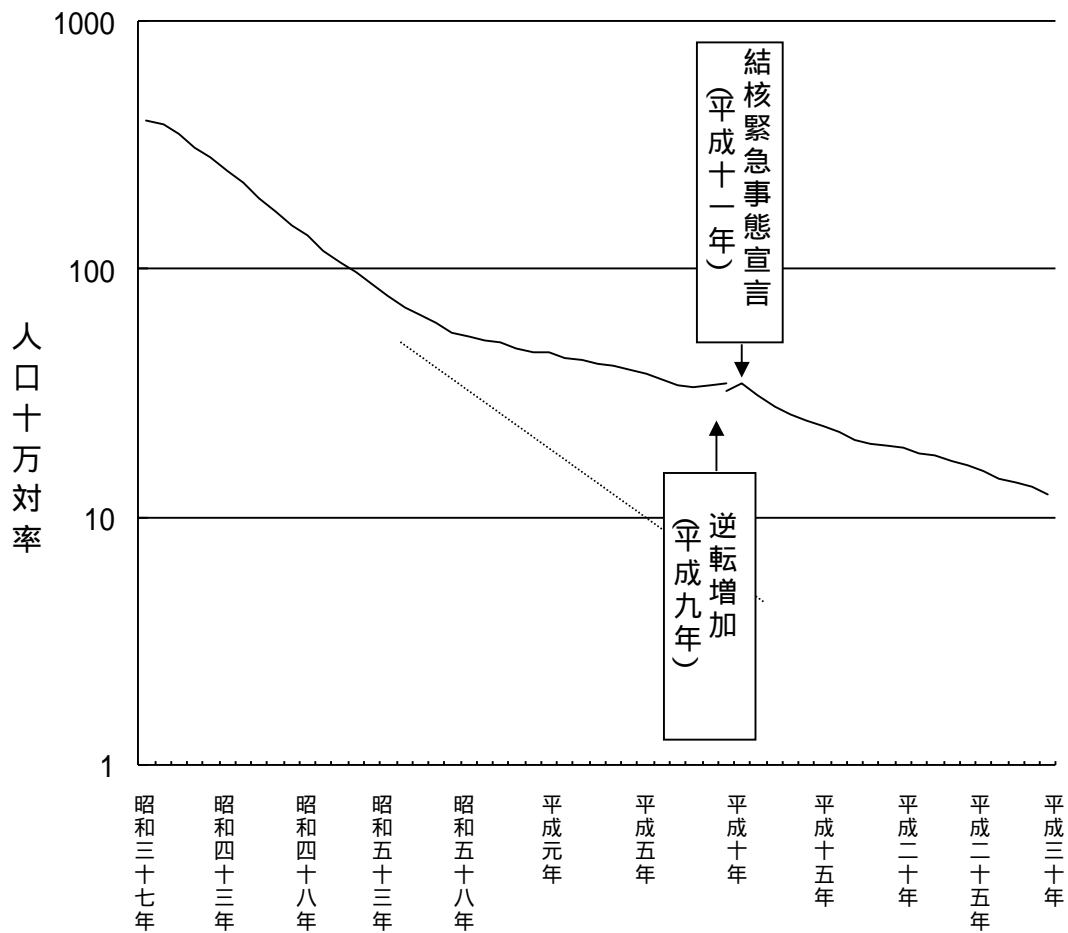
表4 - 2 . 新登録結核患者数及び罹患率の年次推移（喀痰塗抹陽性肺結核患者数、再掲）

区分	喀痰塗抹陽性肺結核(新分類) (再掲)				喀痰塗抹陽性 患者の割合 (% / 全結核)	塗抹陽性肺結核(旧分類) (再掲)				塗抹陽性患者 の割合 (% / 全結核)
	実数/前年比		罹患率 (人口10万対)/前年比			実数/前年比		罹患率 (人口10万対)/前年比		
平成4年						15,540		12.5		31.7
平成5年						15,210	330	12.2	0.3	32.1
平成6年						14,777	433	11.8	0.4	33.1
平成7年						15,103	326	12.0	0.2	35.1
平成8年						15,035	68	11.9	0.1	35.4
平成9年						15,967	932	12.7	0.8	37.4
平成10年	13,405		10.6		32.7	16,294	327	12.9	0.2	37.0
平成11年	14,482	1,077	11.4	0.8	33.1					
平成12年	13,220	1,262	10.4	1.0	33.6					
平成13年	12,656	564	9.9	0.5	35.7					
平成14年	11,933	723	9.4	0.5	36.4					
平成15年	11,857	76	9.3	0.1	37.5					
平成16年	11,445	412	9.0	0.3	38.5					
平成17年	11,318	127	8.9	0.1	40.0					
平成18年	10,492	826	8.2	0.7	39.8					
平成19年	10,204	288	8.0	0.2	40.3					
平成20年	9,809	395	7.7	0.3	39.6					
平成21年	9,675	134	7.6	0.1	40.0					
平成22年	9,019	656	7.0	0.6	38.8					
平成23年	8,654	365	6.8	0.2	38.2					
平成24年	8,237	417	6.5	0.3	38.7					
平成25年	8,119	118	6.4	0.1	39.6					
平成26年	7,651	468	6.0	0.4	39.0					
平成27年	7,131	520	5.6	0.4	39.0					
平成28年	6,642	489	5.2	0.4	37.7					
平成29年	6,359	283	5.0	0.2	37.9					
平成30年	5,781	578	4.6	0.4	37.1					

喀痰塗抹陽性肺結核の患者数は5,781人で、前年より578人（9.1%）減少している。

喀痰塗抹陽性肺結核の罹患率（人口10万対）は4.6であり、前年の5.0より0.4減少している。喀痰塗抹陽性肺結核の患者が全体に占める割合は37.1%で、前年と比べて0.8ポイント減少している。

図1. 結核罹患率の推移(全結核)



平成30年の罹患率（人口10万対）は12.3であり、前年の13.3より1.0(7.5%)減少している。減少率を見ると、平成28年から平成29年にかけての減少率は4.3%であることから、減少幅は3.2ポイント大きくなっている。

表5 - 1 . 年次別・年齢階級別 新登録結核患者数

(() 内は構成比)

区 分	平成 26年	平成 27年	平成 28年	平成 29年	平成 30年
総 数	19,615 (100.0)	18,280 (100.0)	17,625 (100.0)	16,789 (100.0)	15,590 (100.0)
0～4歳	17 (0.1)	29 (0.2)	26 (0.1)	31 (0.2)	24 (0.2)
5～9歳	15 (0.1)	9 (0.0)	11 (0.1)	10 (0.1)	6 (0.0)
10～14歳	17 (0.1)	13 (0.1)	22 (0.1)	18 (0.1)	21 (0.1)
15～19歳	168 (0.9)	163 (0.9)	190 (1.1)	148 (0.9)	158 (1.0)
20～29歳	1,188 (6.1)	1,127 (6.2)	1,235 (7.0)	1,231 (7.3)	1,273 (8.2)
30～39歳	1,235 (6.3)	1,101 (6.0)	1,004 (5.7)	987 (5.9)	885 (5.7)
40～49歳	1,440 (7.3)	1,363 (7.5)	1,228 (7.0)	1,159 (6.9)	1,034 (6.6)
50～59歳	1,514 (7.7)	1,351 (7.4)	1,295 (7.3)	1,268 (7.6)	1,150 (7.4)
60～69歳	2,597 (13.2)	2,359 (12.9)	2,213 (12.6)	2,024 (12.1)	1,704 (10.9)
70～79歳	4,028 (20.5)	3,757 (20.6)	3,407 (19.3)	3,187 (19.0)	2,995 (19.2)
80～89歳	5,753 (29.3)	5,317 (29.1)	5,138 (29.2)	4,822 (28.7)	4,534 (29.1)
90歳以上	1,643 (8.4)	1,691 (9.3)	1,856 (10.5)	1,904 (11.3)	1,806 (11.6)

年齢階級別の新登録結核患者数では、0～14歳の小児結核は51人で前年から8人の減少となっている。10～14歳、15～19歳、20歳～29歳の若年層では患者数が増加しており、20～29歳では、前年から42人の増加となっている。その他の年齢階級では前年から患者数は減少している。減少は60～69歳で最も大きく320人の減少、次いで80～89歳で288人の減少となっている。増加傾向が続いていた90歳以上でも98人の減少となっている。各年齢階級別で全体に占める割合は、80～89歳が29.1%と最も多くなっている。90歳以上でも割合は11.6%となっており増加傾向は続いている。

表5 - 2 . 年次別・年齢階級別 喀痰塗抹陽性肺結核新登録患者数

(() 内は構成比)

区 分	平成 26年	平成 27年	平成 28年	平成 29年	平成 30年
総 数	7,651 (100.0)	7,131 (100.0)	6,642 (100.0)	6,359 (100.0)	5,781 (100.0)
0～4歳	0 (0.0)	1 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.0)	1 (0.0)
5～9歳	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.0)	0 (0.0)
10～14歳	1 (0.0)	1 (0.0)	3 (0.0)	2 (0.0)	3 (0.1)
15～19歳	36 (0.5)	41 (0.6)	47 (0.7)	40 (0.6)	40 (0.7)
20～29歳	329 (4.3)	292 (4.1)	282 (4.2)	289 (4.5)	296 (5.1)
30～39歳	341 (4.5)	348 (4.9)	282 (4.2)	305 (4.8)	259 (4.5)
40～49歳	480 (6.3)	454 (6.4)	386 (5.8)	371 (5.8)	321 (5.6)
50～59歳	597 (7.8)	535 (7.5)	453 (6.8)	449 (7.1)	417 (7.2)
60～69歳	1,010 (13.2)	935 (13.1)	852 (12.8)	804 (12.6)	693 (12.0)
70～79歳	1,578 (20.6)	1,408 (19.7)	1,252 (18.8)	1,238 (19.5)	1,101 (19.0)
80～89歳	2,557 (33.4)	2,347 (32.9)	2,215 (33.3)	1,995 (31.4)	1,857 (32.1)
90歳以上	722 (9.4)	769 (10.8)	870 (13.1)	864 (13.6)	793 (13.7)

年齢階級別の喀痰塗抹陽性肺結核新登録患者数は、0～14歳の小児結核は4人で前年と同数である。15歳以上の年齢層では、20～29歳では7人の増加となったが、30歳以上の各年齢階級では減少となっている。減少幅は80～89歳が138人の減少、70歳～79歳が137人の減少と高齢層での減少が大きくなっている。各年齢階級別で全体に占める割合は、80～89歳が32.1%と最も大きくなっている。

表 5 - 3 . 年次別・年齢階級別 新登録小児結核中の粟粒結核および結核性髄膜炎患者数

区 分	平成 26年			平成 27年			平成 28年			平成 29年			平成 30年		
	粟粒結核	結核性髄膜炎	(再掲) 粟粒結核、結核性髄膜炎併発	粟粒結核	結核性髄膜炎	(再掲) 粟粒結核、結核性髄膜炎併発	粟粒結核	結核性髄膜炎	(再掲) 粟粒結核、結核性髄膜炎併発	粟粒結核	結核性髄膜炎	(再掲) 粟粒結核、結核性髄膜炎併発	粟粒結核	結核性髄膜炎	(再掲) 粟粒結核、結核性髄膜炎併発
合計	2	5	1	1	1	0	1	2	1	3	2	1	1	1	0
0～4歳	1	2	1	0	1	0	1	2	1	3	1	1	1	1	0
5～9歳	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10～14歳	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0

合計は小児結核(0～14歳)の合計、粟粒結核と結核性髄膜炎の重複あり

平成30年患者の詳細

粟粒結核 0歳、日本出生1名、BCG接種歴不明。

結核性髄膜炎 0歳、日本出生1名、BCG接種歴あり。

平成29年患者の詳細

粟粒結核、結核性髄膜炎併発 0歳、日本出生1名、BCG接種歴あり。

粟粒結核 0歳、日本出生2名、BCG接種歴なし。

結核性髄膜炎 14歳、日本出生1名、BCG接種歴不明。

平成28年患者の詳細

粟粒結核、結核性髄膜炎併発 0歳、日本出生1名、BCG接種歴不明。

結核性髄膜炎 0歳、日本出生1名、BCG接種歴不明。

平成27年患者の詳細

粟粒結核 12歳、日本出生1名、BCG接種歴不明。

結核性髄膜炎 0歳、日本出生1名、BCG接種歴不明。

平成26年患者の詳細

粟粒結核、結核性髄膜炎併発 0歳、日本出生1名、BCG接種歴なし。

粟粒結核 14歳、外国出生1名、BCG接種歴不明。

結核性髄膜炎 0歳、日本出生1名、BCG接種歴あり。

結核性髄膜炎 5歳、日本出生1名、BCG接種歴不明。

結核性髄膜炎 9歳、日本出生1名、BCG接種歴あり。

結核性髄膜炎 9歳、外国出生1名、BCG接種歴あり。

平成 30 年に登録された小児結核患者 (15 歳未満) のうち、重症結核例である粟粒結核及び結核性髄膜炎患者数は各 1 人ずつの 2 人となっている。どちらの患者も 0 歳であった。

表5 - 4 . 年次別・年齢階級別 潜在性結核感染症（LTBI）新登録者数

（（ ）内は構成比）

区 分	平成 26年	平成 27年	平成 28年	平成 29年	平成 30年
総 数	7,562 (100.0)	6,675 (100.0)	7,477 (100.0)	7,255 (100.0)	7,414 (100.0)
0～4歳	514 (6.8)	420 (6.3)	419 (5.6)	439 (6.1)	425 (5.7)
5～9歳	140 (1.9)	131 (2.0)	96 (1.3)	119 (1.6)	103 (1.4)
10～14歳	86 (1.1)	110 (1.6)	83 (1.1)	73 (1.0)	69 (0.9)
15～19歳	173 (2.3)	124 (1.9)	162 (2.2)	117 (1.6)	164 (2.2)
20～29歳	1,017 (13.4)	746 (11.2)	896 (12.0)	799 (11.0)	958 (12.9)
30～39歳	1,162 (15.4)	933 (14.0)	888 (11.9)	818 (11.3)	801 (10.8)
40～49歳	1,347 (17.8)	1,042 (15.6)	1,148 (15.4)	1,050 (14.5)	951 (12.8)
50～59歳	1,212 (16.0)	1,063 (15.9)	1,200 (16.0)	1,050 (14.5)	1,021 (13.8)
60～69歳	1,050 (13.9)	1,020 (15.3)	1,261 (16.9)	1,190 (16.4)	1,154 (15.6)
70～79歳	600 (7.9)	709 (10.6)	839 (11.2)	992 (13.7)	1,129 (15.2)
80歳以上	261 (3.5)	377 (5.6)	485 (6.5)	608 (8.4)	639 (8.6)

平成30年に新たに登録された潜在性結核感染症の者の数は7,414人で、前年より159人の増加となっている。年齢階級別では、14歳以下の小児の各年齢階級と30歳以上69歳以下の各年齢階級で減少となっているが、15～19歳、20～29歳の若者層と70歳以上の高齢層では増加となっている。特に増加が大きかった年齢階級である20～29歳では159人、70～79歳では137人の増加となっている。

表5 - 5 . 年次別・年齢階級別 新登録結核患者数に対する潜在性結核感染症（LTBI）
新登録者数の比

(比: 潜在性結核感染症新登録者数 / 新登録結核患者数)

区 分	平成 26年	平成 27年	平成 28年	平成 29年	平成 30年
総 数	0.4	0.4	0.4	0.4	0.5
0～4歳	30.2	14.5	16.1	14.2	17.7
5～9歳	9.3	14.6	8.7	11.9	17.2
10～14歳	5.1	8.5	3.8	4.1	3.3
15～19歳	1.0	0.8	0.9	0.8	1.0
20～29歳	0.9	0.7	0.7	0.6	0.8
30～39歳	0.9	0.8	0.9	0.8	0.9
40～49歳	0.9	0.8	0.9	0.9	0.9
50～59歳	0.8	0.8	0.9	0.8	0.9
60～69歳	0.4	0.4	0.6	0.6	0.7
70～79歳	0.1	0.2	0.2	0.3	0.4
80歳以上	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1

新登録結核患者数に対する潜在性結核感染症新登録者数の比は、14歳以下の各年齢階級では3以上となっており、潜在性結核感染症新登録患者数の方が多くなっている。特に0～4歳、5～9歳では17以上となっている。15～19歳では比は1.0、20歳以上の各年齢階級では、いずれも1未満となっており、新登録結核患者数の方が多くなっている。

表5 - 6 . 年次別・職業別 潜在性結核感染症 (LTBI) 新登録者数

() 内は構成比

区 分	平成 26年	平成 27年	平成 28年	平成 29年	平成 30年
総 数	7,562 (100.0)	6,675 (100.0)	7,477 (100.0)	7,255 (100.0)	7,414 (100.0)
看護師・保健師	1,164 (15.4)	896 (13.4)	940 (12.6)	856 (11.8)	786 (10.6)
医師	183 (2.4)	137 (2.1)	169 (2.3)	129 (1.8)	141 (1.9)
その他医療職・介護職	858 (11.3)	752 (11.3)	750 (10.0)	797 (11.0)	699 (9.4)
接客業等	214 (2.8)	218 (3.3)	206 (2.8)	148 (2.0)	175 (2.4)
教員・保育士	82 (1.1)	64 (1.0)	74 (1.0)	68 (0.9)	87 (1.2)
上記以外の常用勤労者	1,603 (21.2)	1,210 (18.1)	1,392 (18.6)	1,408 (19.4)	1,405 (19.0)
上記以外の臨時雇、日雇	253 (3.3)	223 (3.3)	359 (4.8)	271 (3.7)	267 (3.6)
上記以外の自営業・自由業	208 (2.8)	214 (3.2)	230 (3.1)	207 (2.9)	235 (3.2)
家事従事者	170 (2.2)	145 (2.2)	144 (1.9)	116 (1.6)	108 (1.5)
無職・その他	1,577 (20.9)	1,681 (25.2)	2,088 (27.9)	2,142 (29.5)	2,265 (30.6)
乳幼児	382 (5.1)	332 (5.0)	343 (4.6)	318 (4.4)	319 (4.3)
保育園、幼稚園児・小中学生	325 (4.3)	314 (4.7)	243 (3.2)	295 (4.1)	248 (3.3)
高校生以上の生徒学生等	418 (5.5)	287 (4.3)	410 (5.5)	339 (4.7)	535 (7.2)
不明	125 (1.7)	202 (3.0)	129 (1.7)	161 (2.2)	144 (1.9)

職業別では、全体の潜在性結核感染症新登録者数に占める医療職の割合が、前年の24.6%から21.9%に減少している。一方、無職・その他が全体に占める割合が、前年の29.5%から30.6%に増加しており、平成26年の20.9%から1.5倍の増加となっている。

表5 - 7 . 年次別・年齢階級別 外国生まれ新登録結核患者数

(() 内は全新登録結核患者に占める割合)

区 分	平成 26年	平成 27年	平成 28年	平成 29年	平成 30年
総 数	1,101 (5.6)	1,164 (6.4)	1,338 (7.6)	1,530 (9.1)	1,667 (10.7)
0～4歳	3 (17.6)	3 (10.3)	2 (7.7)	1 (3.2)	3 (12.5)
5～9歳	2 (13.3)	0 (0.0)	3 (27.3)	4 (40.0)	1 (16.7)
10～14歳	3 (17.6)	6 (46.2)	7 (31.8)	6 (33.3)	8 (38.1)
15～19歳	56 (33.3)	57 (35.0)	82 (43.2)	81 (54.7)	87 (55.1)
20～29歳	511 (43.0)	565 (50.1)	712 (57.7)	774 (62.9)	896 (70.4)
30～39歳	243 (19.7)	252 (22.9)	258 (25.7)	349 (35.4)	344 (38.9)
40～49歳	151 (10.5)	134 (9.8)	139 (11.3)	143 (12.3)	151 (14.6)
50～59歳	71 (4.7)	74 (5.5)	66 (5.1)	89 (7.0)	91 (7.9)
60～69歳	26 (1.0)	27 (1.1)	33 (1.5)	48 (2.4)	35 (2.1)
70～79歳	16 (0.4)	19 (0.5)	15 (0.4)	17 (0.5)	23 (0.8)
80歳以上	19 (0.3)	27 (0.4)	21 (0.3)	18 (0.3)	28 (0.4)

外国生まれ新登録結核患者数は、前年から137人増加して1,667人となり、新登録結核患者に占める割合は10.7%となっている。新登録患者数が最も増加したのは20～29歳であり、前年から122人増加し、896人となっている。また、20～29歳の新登録結核患者における外国生まれの者の割合も前年から7.5ポイント増加し、70.4%となっている。30～39歳の外国生まれ新登録結核患者数は前年に比べて5人の減少で344人となっているが、30～39歳の新登録結核患者における外国生まれの者の割合は38.9%と前年から3.5ポイントの増加となっている

表5 - 8 . 年次別・年齢階級別 外国生まれ新登録結核患者数（入国5年以内、再掲）
 （（ ）内は全外国生まれ新登録患者に占める割合）

区 分	平成 26年	平成 27年	平成 28年	平成 29年	平成 30年
総 数	437 (39.7)	505 (43.4)	608 (45.4)	738 (48.2)	882 (52.9)
0～4歳	1 (33.3)	2 (66.7)	1 (50.0)	1 (100.0)	3 (100.0)
5～9歳	2 (100.0)	0 (-)	0 (0.0)	3 (75.0)	1 (100.0)
10～14歳	1 (33.3)	3 (50.0)	5 (71.4)	2 (33.3)	4 (50.0)
15～19歳	37 (66.1)	33 (57.9)	44 (53.7)	54 (66.7)	59 (67.8)
20～29歳	301 (58.9)	351 (62.1)	432 (60.7)	491 (63.4)	617 (68.9)
30～39歳	60 (24.7)	79 (31.3)	89 (34.5)	140 (40.1)	134 (39.0)
40～49歳	20 (13.2)	17 (12.7)	20 (14.4)	28 (19.6)	35 (23.2)
50～59歳	6 (8.5)	11 (14.9)	11 (16.7)	5 (5.6)	9 (9.9)
60～69歳	8 (30.8)	1 (3.7)	2 (6.1)	12 (25.0)	10 (28.6)
70～79歳	1 (6.3)	6 (31.6)	4 (26.7)	2 (11.8)	6 (26.1)
80歳以上	0 (0.0)	2 (7.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (14.3)

外国生まれ新登録結核患者のうち、入国5年以内の者は、前年の738人から144人増加し882人となっている。特に20～29歳では、前年から126人増加し、617人となっている。

表5 - 9 . 年次別・年齢階級別 日本生まれ新登録結核患者数

(() 内は構成比)

区 分	平成 26年	平成 27年	平成 28年	平成 29年	平成 30年
総 数	17,727 (100.0)	16,396 (100.0)	15,504 (100.0)	14,533 (100.0)	13,570 (100.0)
0～4歳	14 (0.1)	25 (0.2)	24 (0.2)	28 (0.2)	21 (0.2)
5～9歳	11 (0.1)	8 (0.0)	8 (0.1)	6 (0.0)	5 (0.0)
10～14歳	14 (0.1)	7 (0.0)	15 (0.1)	11 (0.1)	13 (0.1)
15～19歳	110 (0.6)	103 (0.6)	102 (0.7)	63 (0.4)	70 (0.5)
20～29歳	649 (3.7)	535 (3.3)	500 (3.2)	435 (3.0)	367 (2.7)
30～39歳	955 (5.4)	819 (5.0)	719 (4.6)	609 (4.2)	527 (3.9)
40～49歳	1,233 (7.0)	1,176 (7.2)	1,033 (6.7)	961 (6.6)	864 (6.4)
50～59歳	1,389 (7.8)	1,218 (7.4)	1,164 (7.5)	1,133 (7.8)	1,032 (7.6)
60～69歳	2,468 (13.9)	2,242 (13.7)	2,060 (13.3)	1,880 (12.9)	1,629 (12.0)
70～79歳	3,823 (21.6)	3,563 (21.7)	3,240 (20.9)	3,012 (20.7)	2,907 (21.4)
80～89歳	5,485 (30.9)	5,099 (31.1)	4,889 (31.5)	4,594 (31.6)	4,402 (32.4)
90歳以上	1,576 (8.9)	1,601 (9.8)	1,750 (11.3)	1,801 (12.4)	1,733 (12.8)

(注) 出生国については日本生れと外国生まれの他に出生国不明がある。

日本生まれ新登録結核患者数は、前年の14,533人から963人減少して13,570人となっている。年齢階級別では80～89歳の患者数が最も多く日本生まれ新登録結核患者の32.4%となっている。また、10～19歳の各年齢階級では、新登録結核患者数はわずかではあるが増加となっている。その他の年齢階級では前年からは減少となっており、60～69歳で減少が最も大きく前年から251人減少の1,629人となっている。

表 6 - 1 . 年次別・年齢階級別 結核罹患率

(人口10万対)

区 分	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年
総 数	15.4	14.4	13.9	13.3	12.3
0～4歳	0.3	0.6	0.5	0.6	0.5
5～9歳	0.3	0.2	0.2	0.2	0.1
10～14歳	0.3	0.2	0.4	0.3	0.4
15～19歳	2.8	2.8	3.1	2.5	2.7
20～29歳	9.2	9.0	9.8	9.8	10.1
30～39歳	7.7	7.1	6.5	6.6	6.0
40～49歳	7.8	7.5	6.5	6.1	5.5
50～59歳	9.8	8.8	8.4	8.1	7.2
60～69歳	14.3	13.1	12.0	11.4	10.0
70～79歳	28.4	26.9	24.5	22.0	19.7
80～89歳	72.5	66.0	60.8	55.5	51.2
90歳以上	95.7	92.0	96.3	92.7	82.8

年齢階級別の結核罹患率は、70歳以上の高齢層で高くなっている。60～69歳の罹患率は10.0で全体の罹患率より低い。70～79歳で19.7、80～89歳で51.2、90歳以上では82.8となっている。ただし、30歳以上の各年齢階級では年次推移は減少傾向にある。一方、20～29歳の罹患率は10.1と前年から0.3の増加となっている。

表 6 - 2 . 年次別・年齢階級別 結核罹患率（喀痰塗抹陽性肺結核患者、再掲）

区 分	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年
総 数	6.0	5.6	5.2	5.0	4.6
0～4歳	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
5～9歳	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
10～14歳	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1
15～19歳	0.6	0.7	0.8	0.7	0.7
20～29歳	2.6	2.3	2.2	2.3	2.4
30～39歳	2.1	2.3	1.8	2.0	1.8
40～49歳	2.6	2.5	2.0	2.0	1.7
50～59歳	3.9	3.5	2.9	2.9	2.6
60～69歳	5.6	5.2	4.6	4.5	4.1
70～79歳	11.1	10.1	9.0	8.5	7.3
80～89歳	32.2	29.1	26.2	23.0	21.0
90歳以上	42.1	41.8	45.1	42.1	36.3

喀痰塗抹陽性肺結核の罹患率も、同様に、高齢層ほど高くなっている。69歳以下の各年齢階級では10未満だが、80～89歳で21.0、90歳以上では36.3となっている。

表 6 - 3 . 年次別・年齢階級別 結核罹患率（日本生れ新登録結核患者、再掲）

区 分	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年
総 数	14.1	13.1	12.4	11.7	10.9
0～4歳	0.3	0.5	0.5	0.6	0.4
5～9歳	0.2	0.2	0.2	0.1	0.1
10～14歳	0.2	0.1	0.3	0.2	0.2
15～19歳	1.9	1.7	1.7	1.1	1.2
20～29歳	5.2	4.4	4.2	3.6	3.1
30～39歳	6.0	5.3	4.8	4.2	3.7
40～49歳	6.8	6.4	5.5	5.2	4.7
50～59歳	9.1	7.9	7.6	7.3	6.5
60～69歳	13.7	12.4	11.2	10.7	9.7
70～79歳	27.0	25.3	23.4	20.9	19.3
80～89歳	69.4	62.4	58.0	53.0	49.8
90歳以上	92.0	87.2	91.0	87.8	79.6

新登録結核患者のうち、日本生まれの結核罹患率は、前年から0.8ポイント減少の10.9となっている。外国生まれ結核患者の影響が除かれた20～29歳の罹患率は3.1と前年から0.5の減少となっている。

表7-1. 新登録結核患者数 都道府県別・年次推移

都道府県名	新登録結核患者数(人)					備考	(再掲)菌陰性塗抹陽性肺結核患者数(人)				
	26年	27年	28年	29年	30年		26年	27年	28年	29年	30年
全 国	19,615	18,280	17,625	16,789	15,590		7,651	7,131	6,642	6,359	5,781
北海道	568	533	518	461	451		228	216	163	170	154
青 森	185	182	171	154	127		76	81	72	67	50
岩 手	158	136	131	110	105		61	54	54	30	47
宮 城	209	198	185	167	166		89	75	87	54	63
秋 田	98	87	86	80	74		38	29	43	37	31
山 形	119	82	80	81	65		61	27	22	35	22
福 島	185	188	163	138	183		81	83	61	62	68
茨 城	387	345	354	323	304		133	109	115	127	125
栃 木	252	229	218	228	172		101	89	88	99	58
群 馬	204	192	183	184	171		85	63	68	52	47
埼 玉	1,018	955	979	931	856		417	347	358	363	314
千 葉	876	878	906	757	755		331	315	312	270	270
東 京	2,533	2,306	2,340	2,213	1,970		927	877	848	807	744
神奈川	1,329	1,311	1,192	1,143	1,024		496	462	424	416	374
新 潟	214	232	216	190	178		74	100	81	72	64
富 山	131	125	117	118	107		51	45	41	30	32
石 川	149	149	126	138	110		50	65	41	56	32
福 井	108	72	87	90	76		35	18	27	39	30
山 梨	77	73	72	68	77		33	28	28	31	20
長 野	170	175	165	168	186		74	82	72	72	82
岐 阜	342	314	329	313	279		123	128	114	114	107
静 岡	510	442	425	424	393		200	173	179	148	142
愛 知	1,305	1,199	1,270	1,074	1,126		521	458	478	401	399
三 重	237	244	241	219	198		76	92	84	87	79
滋 賀	166	157	152	166	150		62	68	55	57	49
京 都	498	376	410	410	363		191	149	155	172	136
大 阪	2,168	2,074	1,945	1,881	1,805		897	901	837	796	715
兵 庫	1,036	945	844	874	827		416	388	331	313	324
奈 良	230	230	191	171	156		104	90	75	82	63
和歌山	190	150	131	139	132		80	55	59	58	52
鳥 取	87	90	66	75	51		32	34	24	30	19
島 根	95	102	87	73	78		28	38	24	31	25
岡 山	254	235	208	212	187		96	99	83	88	65
広 島	386	324	324	321	290		143	139	120	122	115
山 口	163	187	178	171	160		68	66	45	53	52
徳 島	124	106	120	118	106		56	39	44	36	38
香 川	171	144	138	139	133		67	51	58	55	35
愛 媛	188	167	133	147	135		69	63	44	56	46
高 知	112	108	92	94	74		49	36	39	38	25
福 岡	774	773	720	732	594		291	279	242	280	214
佐 賀	127	135	106	102	80		53	65	49	47	37
長 崎	307	217	218	227	222		99	78	79	71	74
熊 本	281	282	232	239	201		100	104	98	80	81
大 分	203	199	185	147	169		86	100	88	66	81
宮 崎	169	161	143	120	97		89	87	66	46	46
鹿 児 島	281	257	245	233	236		117	99	94	76	78
沖 縄	241	214	203	226	191		97	87	73	67	57
指定都市(再掲)											
札 幌	190	183	160	158	155		64	67	46	47	44
仙 台	102	93	87	98	75		42	34	37	31	28
さいたま	188	168	182	174	162		89	65	74	71	59
千 葉	154	157	158	128	121		52	63	57	57	47
横 浜	578	565	538	509	441		203	210	183	168	151
川 崎	229	226	249	217	196		93	64	85	92	66
相模原	96	79	57	70	60		33	25	23	28	26
新 潟	78	86	79	77	72		26	38	30	33	24
静 岡	127	107	97	96	83		54	41	45	30	39
浜 松	122	78	105	88	86		48	34	41	29	27
名古屋	528	514	494	419	437		211	197	187	145	165
京 都	321	239	246	235	227		125	90	90	101	91
大 阪	988	925	887	880	798		456	412	394	368	333
堺	181	185	163	138	156		82	96	69	64	67
神 戸	330	328	285	302	258		125	118	108	109	73
岡 山	92	81	77	80	73		33	36	28	34	21
広 島	135	116	109	109	108		59	55	38	40	42
北九州	183	182	173	205	136		76	66	60	88	44
福 岡	218	222	192	191	165		75	80	72	74	65
熊 本	98	125	85	82	76		35	37	29	22	32
東京都特別区	1,937	1,761	1,774	1,679	1,525		719	658	643	603	573

(注)備考欄において「」は30年の新登録数が29年を上回ったものを表す。

都道府県別の新登録結核患者数は、47都道府県のうち7の県で増加している。新登録結核患者数が最も多いのは東京都の1,970人で、次いで大阪府の1,805人となっている。

表7-2. 結核罹患率 都道府県別・年次推移

都道府県名	罹患率(人口10万対)					備考	(再掲)菌陰塗抹陽性肺結核罹患率(人口10万対)				
	26年	27年	28年	29年	30年		26年	27年	28年	29年	30年
全国	15.4	14.4	13.9	13.3	12.3		6.0	5.6	5.2	5.0	4.6
北海道	10.5	9.9	9.7	8.7	8.5		4.2	4.0	3.0	3.2	2.9
青森	14.0	13.9	13.2	12.0	10.1		5.8	6.2	5.6	5.2	4.0
岩手	12.3	10.6	10.3	8.8	8.5	5	4.7	4.2	4.3	2.4	3.8
宮城	9.0	8.5	7.9	7.2	7.2	2	3.8	3.2	3.7	2.3	2.7
秋田	9.5	8.5	8.5	8.0	7.5	3	3.7	2.8	4.3	3.7	3.2
山形	10.5	7.3	7.2	7.4	6.0	1	5.4	2.4	2.0	3.2	2.0
福島	9.6	9.8	8.6	7.3	9.8		4.2	4.3	3.2	3.3	3.6
茨城	13.3	11.8	12.2	11.2	10.6		4.6	3.7	4.0	4.4	4.3
栃木	12.7	11.6	11.1	11.7	8.8		5.1	4.5	4.5	5.1	3.0
群馬	10.3	9.7	9.3	9.4	8.8		4.3	3.2	3.5	2.7	2.4
埼玉	14.1	13.2	13.4	12.7	11.7		5.8	4.8	4.9	5.0	4.3
千葉	14.1	14.1	14.5	12.1	12.1		5.3	5.1	5.0	4.3	4.3
東京	18.9	17.1	17.2	16.1	14.3		6.9	6.5	6.2	5.9	5.4
神奈川	14.6	14.4	13.0	12.5	11.2		5.5	5.1	4.6	4.5	4.1
新潟	9.3	10.1	9.4	8.4	7.9	4	3.2	4.3	3.5	3.2	2.8
富山	12.2	11.7	11.0	11.2	10.2		4.8	4.2	3.9	2.8	3.0
石川	12.9	12.9	10.9	12.0	9.6		4.3	5.6	3.6	4.9	2.8
福井	13.7	9.1	11.1	11.6	9.8		4.4	2.3	3.5	5.0	3.9
山梨	9.2	8.7	8.7	8.3	9.4		3.9	3.4	3.4	3.8	2.4
長野	8.1	8.3	7.9	8.1	9.0		3.5	3.9	3.4	3.5	4.0
岐阜	16.8	15.4	16.3	15.6	14.0		6.0	6.3	5.6	5.7	5.4
静岡	13.8	11.9	11.5	11.5	10.7		5.4	4.7	4.9	4.0	3.9
愛知	17.5	16.0	16.9	14.3	14.9	4	7.0	6.1	6.4	5.3	5.3
三重	13.0	13.4	13.3	12.2	11.1		4.2	5.1	4.6	4.8	4.4
滋賀	11.7	11.1	10.8	11.8	10.6		4.4	4.8	3.9	4.0	3.5
京都	19.1	14.4	15.7	15.8	14.0		7.3	5.7	5.9	6.6	5.2
大阪	24.5	23.5	22.0	21.3	20.5	1	10.2	10.2	9.5	9.0	8.1
兵庫	18.7	17.1	15.3	15.9	15.1	3	7.5	7.0	6.0	5.7	5.9
奈良	16.7	16.8	14.1	12.7	11.7		7.6	6.6	5.5	6.1	4.7
和歌山	19.6	15.6	13.7	14.7	14.1		8.2	5.7	6.2	6.1	5.6
鳥取	15.2	15.7	11.6	13.3	9.1		5.6	5.9	4.2	5.3	3.4
島根	13.6	14.7	12.6	10.7	11.5		4.0	5.5	3.5	4.5	3.7
岡山	13.2	12.2	10.9	11.1	9.9		5.0	5.2	4.3	4.6	3.4
広島	13.6	11.4	11.4	11.3	10.3		5.0	4.9	4.2	4.3	4.1
山口	11.6	13.3	12.8	12.4	11.7		4.8	4.7	3.2	3.8	3.8
徳島	16.2	14.0	16.0	15.9	14.4		7.3	5.2	5.9	4.8	5.2
香川	17.4	14.7	14.2	14.4	13.8		6.8	5.2	6.0	5.7	3.6
愛媛	13.5	12.1	9.7	10.8	10.0		4.9	4.5	3.2	4.1	3.4
高知	15.2	14.8	12.8	13.2	10.5		6.6	4.9	5.4	5.3	3.5
福岡	15.2	15.1	14.1	14.3	11.6		5.7	5.5	4.7	5.5	4.2
佐賀	15.2	16.2	12.8	12.4	9.8		6.3	7.8	5.9	5.7	4.5
長崎	22.1	15.7	15.9	16.8	16.6	2	7.1	5.7	5.8	5.2	5.5
熊本	15.7	15.8	13.1	13.5	11.4		5.6	5.8	5.5	4.5	4.6
大分	17.3	17.1	16.0	12.8	14.8	5	7.3	8.6	7.6	5.7	7.1
宮崎	15.2	14.6	13.0	11.0	9.0		8.0	7.9	6.0	4.2	4.3
鹿児島	16.8	15.6	15.0	14.3	14.6		7.0	6.0	5.7	4.7	4.8
沖縄	17.0	14.9	14.1	15.7	13.2		6.8	6.1	5.1	4.6	3.9
指定都市(再掲)											
札幌	9.8	9.4	8.2	8.0	7.9		3.3	3.4	2.3	2.4	2.2
仙台	9.5	8.6	8.0	9.0	6.9		3.9	3.1	3.4	2.9	2.6
さいたま	14.9	13.2	14.2	13.5	12.5		7.1	5.1	5.8	5.5	4.5
千葉	15.9	16.1	16.2	13.1	12.4		5.4	6.5	5.9	5.8	4.8
横浜	15.6	15.2	14.4	13.6	11.8		5.5	5.6	4.9	4.5	4.0
川崎	15.7	15.3	16.7	14.4	12.9		6.4	4.3	5.7	6.1	4.4
相模原	13.3	11.0	7.9	9.7	8.3		4.6	3.5	3.2	3.9	3.6
新潟	9.7	10.6	9.8	9.6	9.0		3.2	4.7	3.7	4.1	3.0
静岡	18.0	15.2	13.7	13.6	11.8		7.6	5.8	6.3	4.2	5.5
浜松	15.4	9.8	13.2	11.1	10.8		6.1	4.3	5.1	3.6	3.4
名古屋	23.2	22.4	21.4	18.1	18.8		9.3	8.6	8.1	6.3	7.1
京都	21.8	16.2	16.7	16.0	15.5		8.5	6.1	6.1	6.9	6.2
大阪	36.8	34.4	32.8	32.4	29.3		17.0	15.3	14.6	13.6	12.2
堺	21.5	22.0	19.5	16.5	18.6		9.8	11.4	8.2	7.7	8.0
神戸	21.5	21.3	18.6	19.7	16.9		8.1	7.7	7.0	7.1	4.8
岡山	12.9	11.4	10.9	11.3	10.3		4.6	5.1	4.0	4.8	3.0
広島	11.4	9.7	9.1	9.1	9.0		5.0	4.6	3.2	3.3	3.5
北九州	19.0	18.9	18.1	21.6	14.4		7.9	6.9	6.3	9.3	4.7
福岡	14.3	14.4	12.4	12.2	10.4		4.9	5.2	4.6	4.7	4.1
熊本	13.2	16.9	11.5	11.1	10.3		4.7	5.0	3.9	3.0	4.3
東京都特別区	21.2	19.1	18.9	17.8	16.0		7.9	7.1	6.9	6.4	6.0

注1) 備考欄において「」は30年の罹患率が29年を上回ったもの、「1」は罹患率下位1位を、「1」は罹患率上位1位を表す。
 注2) 太枠は平成30年の罹患率が結核低まん延の水準である10を下回った都道府県および政令指定都市。

都道府県別の結核罹患率は、47都道府県のうち7の県で前年から増加している。一方、結核低まん延の水準である罹患率が10を下回った都道府県数は、前年の10から大きく増加して17となっている。最も低い山形県の結核罹患率は6.0となっている。

表 8 . 年末時結核登録者数及び有病率の年次推移

区 分	総数 / 前年比		活 動 性 全 結 核			
			患者数 / 前年比		有病率(人口10万対) / 前年比	
平成 6年	181,470	10,114	70,781	5,894	56.6	4.9
平成 7年	168,581	12,889	65,167	5,614	51.9	4.7
平成 8年	132,958	35,623	59,760	5,407	47.5	4.4
平成 9年	121,762	11,196	55,409	4,351	43.9	3.6
平成10年	107,058		49,205		38.9	
平成11年	104,813	2,245	48,888	317	38.6	0.3
平成12年	99,481	5,332	41,971	6,917	33.1	5.5
平成13年	91,395	8,086	36,288	5,683	28.5	4.6
平成14年	82,974	8,421	32,396	3,892	25.4	3.1
平成15年	77,211	5,763	29,717	2,679	23.3	2.1
平成16年	72,079	5,132	26,945	2,772	21.1	2.2
平成17年	68,508	3,571	23,969	2,976	18.8	2.3
平成18年	65,695	2,813	21,976	1,993	17.2	1.6
平成19年	63,556	2,139	20,637	1,339	16.2	1.0
平成20年	62,244	1,312	20,021	616	15.7	0.5
平成21年	59,573	2,671	18,915	1,106	14.8	0.9
平成22年	55,573	4,000	17,927	988	14.0	0.8
平成23年	55,196	377	17,264	663	13.5	0.5
平成24年	52,173	3,023	14,858	2,406	11.7	1.8
平成25年	49,814	2,359	13,957	901	11.0	0.7
平成26年	47,845	1,969	13,513	444	10.6	0.4
平成27年	44,888	2,957	12,534	979	9.9	0.7
平成28年	42,299	2,589	11,717	817	9.2	0.7
平成29年	39,670	2,629	11,097	620	8.8	0.4
平成30年	37,134	2,536	10,448	649	8.3	0.5

平成10年以降は新分類

平成30年末現在の結核登録者数は37,134人と、前年の39,670人より2,536人減少している。そのうち、活動性全結核の患者数は10,448人と、前年より649人減少している。また、平成30年末の結核有病率は、前年から0.5減少し、8.3となっている。

表9 . 年次別 前回治療開始年代別再治療者数 (割合)

前回治療開始年	2014年登録者	2015年登録者	2016年登録者	2017年登録者	2018年登録者
総数	1,179 (100%)	1,032 (100%)	908 (100%)	839 (100%)	732 (100%)
1940年代以前	101 (8.6)	63 (6.1)	61 (6.7)	46 (5.5)	36 (4.9)
1950年代	136 (11.5)	154 (14.9)	123 (13.5)	106 (12.6)	79 (10.8)
1960年代	82 (7.0)	74 (7.2)	50 (5.5)	61 (7.3)	57 (7.8)
1970年代	46 (3.9)	30 (2.9)	30 (3.3)	28 (3.3)	19 (2.6)
1980年代	39 (3.3)	23 (2.2)	29 (3.2)	29 (3.5)	14 (1.9)
1990年代	71 (6.0)	66 (6.4)	48 (5.3)	43 (5.1)	32 (4.4)
2000年代	236 (20.0)	169 (16.4)	137 (15.1)	94 (11.2)	89 (12.2)
2010年代以降	468 (39.7)	453 (43.9)	430 (47.4)	432 (51.5)	406 (55.5)
(再掲) 2010年代の再治療者数					
2010年	56 (12.0)	43 (9.5)	28 (6.5)	33 (7.6)	21 (5.2)
2011年	88 (18.8)	37 (8.2)	32 (7.4)	18 (4.2)	18 (4.4)
2012年	136 (29.1)	73 (16.1)	45 (10.5)	25 (5.8)	24 (5.9)
2013年	158 (33.8)	119 (26.3)	76 (17.7)	40 (9.3)	29 (7.1)
2014年	30 (6.4)	141 (31.1)	94 (21.9)	64 (14.8)	33 (8.1)
2015年	-	40 (8.8)	113 (26.3)	103 (23.8)	57 (14.0)
2016年	-	-	42 (9.8)	113 (26.2)	95 (23.4)
2017年	-	-	-	36 (8.3)	98 (24.1)
2018年	-	-	-	-	31 (7.6)

(注) 前回治療開始年は、登録情報あるいは本人・家族等への問診による。
 対象は 2014～2018年新登録者で治療歴が再治療の患者。前回治療年が今回の登録年に近い者には、「登録中の再登録」による者が多いと推察される。

平成30年新登録結核患者のうちの再治療者は、前年の839人から107人減少して732人となっている。このうち、前回治療年が2000年以降の者は495人で、さらに2010年以降の者が406人と再治療者のうち55.5%となっている。

表10-1. 発病から初診までの期間が2か月以上の割合
有症状肺結核

	発病～初診までの期間が 2か月以上の割合(%)
平成14年	19.3
平成15年	18.8
平成16年	18.8
平成17年	18.2
平成18年	19.4
平成19年	18.0
平成20年	18.2
平成21年	17.9
平成22年	18.3
平成23年	18.6
平成24年	18.7
平成25年	18.1
平成26年	18.8
平成27年	20.0
平成28年	19.7
平成29年	20.8
平成30年	20.6

(再掲) 30-59歳有症状喀痰塗抹陽性肺結核

	発病～初診までの期間が 2か月以上の割合(%)
平成14年	34.2
平成15年	32.3
平成16年	31.6
平成17年	31.4
平成18年	33.2
平成19年	32.1
平成20年	32.3
平成21年	30.7
平成22年	32.6
平成23年	32.9
平成24年	33.7
平成25年	31.5
平成26年	38.0
平成27年	37.1
平成28年	33.3
平成29年	35.0
平成30年	34.5

平成30年の新登録肺結核患者のうち有症状の者の中で、受診が遅れた（症状発現から受診までの期間が2か月以上）患者の割合は、20.6%となり、前年から0.2ポイントの減少となったが、平成14年以降では依然として高い割合となっている。このうち30～59歳の有症状喀痰塗抹陽性肺結核患者に限定すると、受診が遅れた患者の割合は34.5%となっている。

表10 - 2 . 初診から診断（登録）までの期間が1か月以上の割合

有症状肺結核

	初診～診断までの期間が 1か月以上の割合(%)
平成14年	27.2
平成15年	26.0
平成16年	25.0
平成17年	25.7
平成18年	24.3
平成19年	21.7
平成20年	19.9
平成21年	20.4
平成22年	22.6
平成23年	22.7
平成24年	22.0
平成25年	22.1
平成26年	21.6
平成27年	21.5
平成28年	22.0
平成29年	21.7
平成30年	22.0

(再掲) 30-59歳有症状喀痰塗抹陽性肺結核

	初診～診断までの期間が 1か月以上の割合(%)
平成14年	15.1
平成15年	14.6
平成16年	14.1
平成17年	14.6
平成18年	13.9
平成19年	13.2
平成20年	10.6
平成21年	10.9
平成22年	13.6
平成23年	14.8
平成24年	15.0
平成25年	13.9
平成26年	13.7
平成27年	13.6
平成28年	16.1
平成29年	14.7
平成30年	15.7

平成14年～18年までは初診から登録までの期間、平成19年以降は初診から診断までの期間

診断が遅れた（受診から結核の診断までの期間が1か月以上）患者の割合は、22.0%となっている。

表10 - 3 . 発病から診断（登録）までの期間が3か月以上の割合

有症状肺結核

	発病～診断までの期間が 3か月以上の割合(%)
平成14年	21.5
平成15年	21.0
平成16年	20.3
平成17年	19.7
平成18年	20.7
平成19年	18.5
平成20年	18.1
平成21年	18.2
平成22年	19.6
平成23年	19.4
平成24年	19.6
平成25年	18.7
平成26年	19.0
平成27年	20.4
平成28年	19.6
平成29年	21.2
平成30年	20.7

(再掲) 30-59歳有症状喀痰塗抹陽性肺結核

	発病～診断までの期間が 3か月以上の割合(%)
平成14年	30.3
平成15年	29.3
平成16年	28.2
平成17年	28.7
平成18年	29.5
平成19年	26.9
平成20年	27.0
平成21年	26.9
平成22年	28.4
平成23年	29.8
平成24年	30.5
平成25年	29.0
平成26年	32.9
平成27年	35.5
平成28年	32.6
平成29年	33.6
平成30年	30.6

平成14年～18年までは発病から登録までの期間、平成19年以降は発病から診断までの期間

発見が遅れた（症状発現から結核の診断までの期間が3か月以上）患者の割合は、20.7%となっている。

表11. 年次別 新登録肺結核培養陽性結核患者の薬剤感受性検査結果

(() 内は構成比)

区 分	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
新登録肺結核患者数	15,149	14,123	13,608	13,011	12,033
培養陽性患者数	10,259 (100.0)	10,035 (100.0)	9,878 (100.0)	9,580 (100.0)	9,016 (100.0)
INH,RFP両剤耐性	56 (0.5)	48 (0.5)	49 (0.5)	52 (0.5)	55 (0.6)
(再掲) INH,RFP両剤耐性のうち外国出生患者	19	16	15	24	29
上記以外でINH耐性含む	293 (2.9)	324 (3.2)	320 (3.2)	331 (3.5)	322 (3.6)
上記以外でRFP耐性含む	20 (0.2)	29 (0.3)	25 (0.3)	28 (0.3)	32 (0.4)
その他耐性	380 (3.7)	366 (3.6)	347 (3.5)	442 (4.6)	372 (4.1)
HRSEすべてに感受性	6,844 (66.7)	6,806 (67.8)	6,939 (70.2)	6,981 (72.9)	6,734 (74.7)
HR感受性その他不明	52 (0.5)	57 (0.6)	52 (0.5)	57 (0.6)	55 (0.6)
未実施・他・不明	2,614 (25.5)	2,405 (24.0)	2,146 (21.7)	1,689 (17.6)	1,446 (16.0)
(再掲)薬剤感受性検査結果判明者	7,645 (74.5)	7,630 (76.0)	7,732 (78.3)	7,891 (82.4)	7,570 (84.0)
(再掲) 薬剤感受性検査結果判明者					
培養陽性患者数	7,645 (100.0)	7,630 (100.0)	7,732 (100.0)	7,891 (100.0)	7,570 (100.0)
INH,RFP両剤耐性	56 (0.7)	48 (0.6)	49 (0.6)	52 (0.7)	55 (0.7)
上記以外でINH耐性含む	293 (3.8)	324 (4.2)	320 (4.1)	331 (4.2)	322 (4.3)
上記以外でRFP耐性含む	20 (0.3)	29 (0.4)	25 (0.3)	28 (0.4)	32 (0.4)
その他耐性	380 (5.0)	366 (4.8)	347 (4.5)	442 (5.6)	372 (4.9)
HRSEすべてに感受性	6,844 (89.5)	6,806 (89.2)	6,939 (89.7)	6,981 (88.5)	6,734 (89.0)
HR感受性その他不明	52 (0.7)	57 (0.7)	52 (0.7)	57 (0.7)	55 (0.7)

INH,RFP両剤感受性検査結果判明者を薬剤感受性検査結果判明とした。

平成30年の新登録肺結核培養陽性結核患者9,016人のうち、薬剤感受性検査結果が判明した者(INH、RFP両剤感受性検査結果判明者)は7,570人で、割合は84.0%となり、前年の82.4%から1.6ポイント増加となっている。このうち、多剤耐性肺結核患者数(INH,RFP両剤耐性の者)は55人で、前年より3人増加となっている。新登録肺結核培養陽性結核患者の多剤耐性結核割合は0.6%で前年の0.5%から0.1ポイント増加となっている。また、薬剤感受性検査結果が判明した者のうち、主要4剤(HRSE)全ての薬剤に対し感受性のある患者の割合は89.0%となっている。

表12. 年次別 新登録結核患者の糖尿病合併あるいはH I V感染

(() 内は構成比)

区 分	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
新登録結核患者数	19,615 (100.0)	18,280 (100.0)	17,625 (100.0)	16,789 (100.0)	15,590 (100.0)
糖尿病ありの者	2,753 (14.0)	2,686 (14.7)	2,509 (14.2)	2,368 (14.1)	2,210 (14.2)
なしの者	14,536 (74.1)	13,472 (73.7)	13,277 (75.3)	12,576 (74.9)	11,630 (74.6)
不明の者	2,326 (11.9)	2,122 (11.6)	1,839 (10.4)	1,845 (11.0)	1,750 (11.2)
H I V 検査実施陽性者	45 (0.2)	40 (0.2)	44 (0.2)	34 (0.2)	44 (0.3)
H I V 検査実施陰性者	1,627 (8.3)	1,474 (8.1)	1,556 (8.8)	1,454 (8.7)	1,251 (8.0)
H I V 検査未実施者	4,970 (25.3)	4,697 (25.7)	4,933 (28.0)	4,753 (28.3)	4,757 (30.5)
不明の者	12,973 (66.1)	12,069 (66.0)	11,092 (62.9)	10,548 (62.8)	9,538 (61.2)

平成30年の新登録結核患者のうち、糖尿病合併患者は2,210人で、新登録結核患者の14.2%となっている。また、HIV検査を実施した患者は1,295人で、新登録結核患者の8.3%にあたり、このうちHIV陽性は44人で、新登録結核患者の0.3%となっている。

表13 - 1. 年次別 医療従事者の新登録結核患者数 (看護師・保健師)

(() 内は新登録に占める割合)

	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
総 数	249 (1.3)	219 (1.2)	191 (1.1)	216 (1.3)	168 (1.1)
15～19歳	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
20～29歳	48 (4.0)	32 (2.8)	24 (1.9)	46 (3.7)	26 (2.0)
30～39歳	84 (6.8)	63 (5.7)	53 (5.3)	59 (6.0)	38 (4.3)
40～49歳	60 (4.2)	61 (4.5)	47 (3.8)	54 (4.7)	58 (5.6)
50～59歳	44 (2.9)	47 (3.5)	44 (3.4)	43 (3.4)	29 (2.5)
60～69歳	12 (0.5)	15 (0.6)	18 (0.8)	14 (0.7)	16 (0.9)
70～79歳	1 (0.0)	1 (0.0)	4 (0.1)	0 (0.0)	1 (0.0)
80歳以上	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)

平成30年の新登録結核患者のうち、看護師・保健師からの登録患者は168人で、昨年の216人から48人の減少となっている。新登録結核患者のうちの割合は1.1%と前年の1.3%から0.2ポイントの減少となっている。年齢階級別では、40～49歳の層が最も多く、前年の54人から4人増加して58人、同年齢階級新登録結核患者の5.6%となっている。

表13 - 2 . 年次別 医療従事者の新登録結核患者数（医師）

（（ ）内は新登録に占める割合）

	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
総 数	47 (0.2)	61 (0.3)	40 (0.2)	38 (0.2)	34 (0.2)
20～29歳	3 (0.3)	9 (0.8)	3 (0.2)	4 (0.3)	3 (0.2)
30～39歳	9 (0.7)	12 (1.1)	3 (0.3)	6 (0.6)	3 (0.3)
40～49歳	10 (0.7)	9 (0.7)	8 (0.7)	6 (0.5)	5 (0.5)
50～59歳	7 (0.5)	12 (0.9)	5 (0.4)	7 (0.6)	10 (0.9)
60～69歳	6 (0.2)	7 (0.3)	8 (0.4)	4 (0.2)	4 (0.2)
70～79歳	5 (0.1)	5 (0.1)	4 (0.1)	6 (0.2)	2 (0.1)
80歳以上	7 (0.1)	7 (0.1)	9 (0.1)	5 (0.1)	7 (0.1)

平成30年の新登録結核患者のうち、医師の登録患者は34人で、新登録結核患者の0.2%となっている。年齢階級別の割合では、30～59歳で、同年齢階級新登録結核患者の0.3～0.9%となっている。

表13 - 3 . 年次別 医療従事者の新登録結核患者数（その他）

（（ ）内は新登録に占める割合）

	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
総 数	255 (1.3)	264 (1.4)	231 (1.3)	280 (1.7)	225 (1.4)
15～19歳	0 (0.0)	1 (0.6)	1 (0.5)	3 (2.0)	3 (1.9)
20～29歳	46 (3.9)	48 (4.3)	36 (2.9)	39 (3.2)	30 (2.4)
30～39歳	55 (4.5)	62 (5.6)	52 (5.2)	64 (6.5)	57 (6.4)
40～49歳	60 (4.2)	61 (4.5)	63 (5.1)	66 (5.7)	38 (3.7)
50～59歳	56 (3.7)	53 (3.9)	44 (3.4)	61 (4.8)	52 (4.5)
60～69歳	27 (1.0)	29 (1.2)	28 (1.3)	34 (1.7)	38 (2.2)
70～79歳	9 (0.2)	9 (0.2)	7 (0.2)	11 (0.3)	7 (0.2)
80歳以上	2 (0.0)	1 (0.0)	0 (0.0)	2 (0.0)	0 (0.0)

(注)その他:理学療法士、作業療法士、検査技師、放射線技師等および介護職等、看護師・保健師・医師以外で医療機関に勤務する結核感染リスクが高いと考えられる者。

平成30年の新登録結核患者のうち、理学療法士、作業療法士、検査技師、放射線技師など、看護師・保健師・医師以外の者で医療機関に勤務する者の登録患者数は225人で昨年の280人から55人の減少となり、新登録結核患者のうちの割合は1.4%となっている。年齢階級別では、30～39歳における割合が最も大きく、同年齢階級新登録結核患者の6.4%となっている。

表14 - 1 . 年次別 無職臨時日雇等の新登録結核患者数

(() 内は新登録に占める割合)

	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
合 計	1,280 (23.8)	1,172 (23.7)	1,105 (23.2)	878 (18.9)	869 (20.0)
20～24歳	81 (14.6)	72 (13.7)	66 (10.5)	44 (7.2)	52 (8.0)
25～29歳	103 (16.2)	86 (14.3)	96 (15.9)	89 (14.3)	73 (11.8)
30～34歳	104 (17.0)	95 (18.4)	98 (19.0)	90 (17.8)	79 (17.2)
35～39歳	133 (21.3)	107 (18.3)	97 (19.9)	86 (17.8)	89 (20.9)
40～44歳	157 (21.9)	161 (23.2)	137 (24.0)	105 (20.0)	80 (18.5)
45～49歳	196 (27.1)	179 (26.7)	187 (28.5)	141 (22.2)	142 (23.6)
50～54歳	226 (31.8)	202 (31.3)	175 (29.1)	148 (24.2)	153 (27.5)
55～59歳	280 (34.9)	270 (38.3)	249 (35.9)	175 (26.7)	201 (33.9)

(注)無職臨時日雇等：接客業、医療従事者、他の常用勤労者・自営業等、家事従事者、学生、その他不明を除く。合計は20歳～59歳の計。

表14 - 2 . 年次別 無職臨時日雇等の新登録結核患者数(男性、再掲)

(() 内は新登録に占める割合)

	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
合 計	734 (22.7)	699 (23.5)	613 (21.3)	507 (18.3)	485 (18.6)
20～24歳	38 (12.4)	38 (13.0)	44 (11.5)	29 (8.5)	23 (6.2)
25～29歳	39 (11.7)	39 (12.1)	37 (11.5)	44 (13.2)	35 (10.0)
30～34歳	44 (13.7)	33 (11.7)	41 (15.2)	35 (13.6)	31 (13.1)
35～39歳	75 (21.3)	56 (17.3)	43 (15.7)	31 (12.1)	39 (17.0)
40～44歳	82 (18.1)	89 (22.2)	69 (20.8)	53 (17.4)	43 (15.9)
45～49歳	120 (26.5)	116 (26.4)	110 (27.1)	91 (22.5)	83 (22.6)
50～54歳	141 (30.7)	126 (30.1)	109 (26.7)	111 (25.2)	94 (25.1)
55～59歳	195 (34.8)	202 (40.8)	160 (33.5)	113 (25.9)	137 (34.1)

(注)無職臨時日雇等：接客業、医療従事者、他の常用勤労者・自営業等、家事従事者、学生、その他不明を除く。合計は20歳～59歳の計。

平成30年の新登録結核患者のうち、登録時の年齢が20～59歳であり、登録時の職業が無職臨時日雇等であった者は869人で、昨年の878人から9人減少している。新登録結核患者のうちの割合は20.0%で前年の18.9%から1.1ポイントの増加となっている。年齢階級別での患者数は、高齢層ほど多くなっており、55～59歳では、同年齢階級の33.9%と3人に1人となっている。

また、男性の患者に占める無職臨時日雇等の者の割合は55～59歳が最も割合が大きく34.1%となっており、前年から8.2ポイント増加している。

表15 - 1 . 前年(平成29年)新登録結核患者の治療成績

	総数	治療成功 (%)	死亡 (%)	失敗 (%)	脱落・中断 (%)	転出 (%)	治療中 (%)	不明 (%)
総数	16,702	11,388 (68.2)	3,754 (22.5)	12 (0.1)	274 (1.6)	551 (3.3)	676 (4.0)	47 (0.3)
0～9歳	40	36 (90.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (2.5)	0 (0.0)	3 (7.5)
10～19歳	167	131 (78.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (1.2)	22 (13.2)	12 (7.2)	0 (0.0)
20～29歳	1,224	983 (80.3)	4 (0.3)	0 (0.0)	16 (1.3)	172 (14.1)	48 (3.9)	1 (0.1)
30～39歳	982	827 (84.2)	6 (0.6)	0 (0.0)	14 (1.4)	80 (8.1)	49 (5.0)	6 (0.6)
40～49歳	1,153	1,020 (88.5)	22 (1.9)	0 (0.0)	21 (1.8)	42 (3.6)	45 (3.9)	3 (0.3)
50～59歳	1,258	1,064 (84.6)	64 (5.1)	1 (0.1)	29 (2.3)	32 (2.5)	62 (4.9)	6 (0.5)
60～69歳	2,002	1,576 (78.7)	240 (12.0)	2 (0.1)	44 (2.2)	50 (2.5)	87 (4.3)	3 (0.1)
70～79歳	3,169	2,307 (72.8)	620 (19.6)	3 (0.1)	53 (1.7)	38 (1.2)	139 (4.4)	9 (0.3)
80～89歳	4,809	2,684 (55.8)	1,770 (36.8)	2 (0.0)	75 (1.6)	77 (1.6)	191 (4.0)	10 (0.2)
90歳以上	1,898	760 (40.0)	1,028 (54.2)	4 (0.2)	20 (1.1)	37 (1.9)	43 (2.3)	6 (0.3)

平成29年の新登録結核患者の平成30年末での治療成績は、治療成功が68.2%、死亡22.5%、失敗0.1%、脱落・中断1.6%、転出3.3%、治療中4.0%、不明0.3%となっている。60歳以上から年齢階級の上昇にともなって死亡割合が増加し、60～69歳で12.0%、70～79歳で19.6%、80～89歳で36.8%、90歳以上で54.2%となっている。死亡の影響が少ない59歳以下の年齢階級の治療成功割合は78.4%～90.0%となっている。脱落・中断は50～59歳で最も高く2.3%となっている。

表15 - 2 . (再掲)前年(平成29年)新登録再治療結核患者の治療成績

	総数	治療成功 (%)	死亡 (%)	失敗 (%)	脱落・中断 (%)	転出 (%)	治療中 (%)	不明 (%)
総数	836	574 (68.7)	148 (17.7)	1 (0.1)	32 (3.8)	19 (2.3)	59 (7.1)	3 (0.4)
0～9歳	3	2 (66.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (33.3)
10～19歳	2	2 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
20～29歳	42	31 (73.8)	1 (2.4)	0 (0.0)	1 (2.4)	5 (11.9)	4 (9.5)	0 (0.0)
30～39歳	43	34 (79.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (4.7)	3 (7.0)	4 (9.3)	0 (0.0)
40～49歳	75	60 (80.0)	3 (4.0)	0 (0.0)	2 (2.7)	0 (0.0)	9 (12.0)	1 (1.3)
50～59歳	79	60 (75.9)	2 (2.5)	0 (0.0)	6 (7.6)	3 (3.8)	7 (8.9)	1 (1.3)
60～69歳	106	80 (75.5)	8 (7.5)	1 (0.9)	8 (7.5)	3 (2.8)	6 (5.7)	0 (0.0)
70～79歳	165	119 (72.1)	24 (14.5)	0 (0.0)	6 (3.6)	0 (0.0)	16 (9.7)	0 (0.0)
80～89歳	233	140 (60.1)	72 (30.9)	0 (0.0)	7 (3.0)	3 (1.3)	11 (4.7)	0 (0.0)
90歳以上	88	46 (52.3)	38 (43.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (2.3)	2 (2.3)	0 (0.0)

平成29年の新登録再治療結核患者の平成30年末での治療成績は、治療成功が68.7%、死亡17.7%、失敗0.1%、脱落・中断3.8%、転出2.3%、治療中7.1%、不明0.4%となっており、死亡の割合は全体よりも低くなっているものの脱落・中断が多くなっている。

表15 - 3 . 前年(平成29年)新登録潜在性結核感染症(LTBI)治療開始者の治療成績

	総数	治療完了 (%)	死亡 (%)	脱落・中断 (%)	転出 (%)	治療中 (%)	不明 (%)
総数	7,130	6,094 (85.5)	167 (2.3)	565 (7.9)	139 (1.9)	123 (1.7)	42 (0.6)
0～9歳	538	503 (93.5)	0 (0.0)	17 (3.2)	9 (1.7)	8 (1.5)	1 (0.2)
10～19歳	188	167 (88.8)	0 (0.0)	8 (4.3)	5 (2.7)	7 (3.7)	1 (0.5)
20～29歳	786	679 (86.4)	0 (0.0)	51 (6.5)	37 (4.7)	17 (2.2)	2 (0.3)
30～39歳	809	695 (85.9)	0 (0.0)	59 (7.3)	36 (4.4)	15 (1.9)	4 (0.5)
40～49歳	1,031	912 (88.5)	0 (0.0)	81 (7.9)	14 (1.4)	15 (1.5)	9 (0.9)
50～59歳	1,036	869 (83.9)	5 (0.5)	120 (11.6)	14 (1.4)	21 (2.0)	7 (0.7)
60～69歳	1,169	1,003 (85.8)	25 (2.1)	112 (9.6)	7 (0.6)	15 (1.3)	7 (0.6)
70～79歳	973	815 (83.8)	64 (6.6)	65 (6.7)	9 (0.9)	15 (1.5)	5 (0.5)
80～89歳	522	398 (76.2)	57 (10.9)	45 (8.6)	7 (1.3)	9 (1.7)	6 (1.1)
90歳以上	78	53 (67.9)	16 (20.5)	7 (9.0)	1 (1.3)	1 (1.3)	0 (0.0)

平成29年の潜在性結核感染症新登録者のうち治療を開始した者の平成30年末での治療完了率は85.5%となっている。脱落・中断は7.9%となっているが、中高年齢階級では高く50～59歳では11.6%、60～69歳で9.6%となっている。

表15 - 4 . 前々年(平成28年)新登録結核患者で多剤耐性の者の治療成績

	総数	治療成功 (%)	死亡 (%)	失敗 (%)	脱落・中断 (%)	転出 (%)	治療中 (%)	不明 (%)
総数	56	29 (51.8)	11 (19.6)	0 (0.0)	7 (12.5)	5 (8.9)	2 (3.6)	2 (3.6)

(注) 表15-1 - 表15-4: 平成30年末までの治療成績

平成28年の新登録結核患者で多剤耐性結核患者の平成30年末での治療成績は、対象56人のうち治療成功51.8%、死亡19.6%、失敗0.0%、脱落・中断12.5%、転出8.9%、治療中3.6%、不明3.6%となっている。